

**7月**の行事予定

**南児童館** ☎(84)3456

- ・星に願いを！ 1日(月)
- ・きらきら水族館をつくろう 9日(火)
- ・にこにこ広場 12日(金)
- ・避難訓練 12日(金)
- ・夏のお楽しみ会 23日(火)



**7月**の行事予定

**西児童館** ☎(84)2321

- ・ちびっこ広場・星に願いを！ 5日(金)
- ・ぴよぴよ広場 16日(火)
- ・手作りクッキング 18日(木)
- ・そうめん流し 20日(土)
- (母親クラブ主催)
- ・避難訓練 23日(火)
- ・水遊びアラカルト 26日(金)

※7月20日(土)午後4時15分閉館

**にこにこ広場** ～南児童館～



5月12日、南児童館では「にこにこ広場」を開催しました。

初めに、二人の友達のお誕生日会を行い、音楽に合わせて誕生日の歌をみんなで歌い祝福しました。また、二人はプレゼントをもらい、とてもうれしそうでした。

この後、大きなボールころがしでは、自分の身長ほどもある大きなボールに戸惑い、また、玉入れでは、せっかく入った玉を途中で出されながら、時間の経過も忘れて歓喜の中、保護者のサポートを受けながら一緒に動き回り、楽しく、心地よい時間を過ごしました。

**避難訓練** ～西児童館～



西児童館では、毎月一回、火災・地震・竜巻のいずれかを想定し避難訓練を行っています。

5月21日、竜巻が発生したという想定で、西児童館のプレイルームに避難しました。

「窓から離れ頭を守るため体を丸める。」訓練ということで、ふざけてしまう児童もいましたが、最後はみんな、「押さない、駆けかない」等の合言葉「おかしもすき」を確認し、訓練を終わりにしました。

**思いやりの心で明るい社会を**

「いじめ」は人権意識の希薄さによるもの

「いじめ」の根底には、他人に対する思いやり、いたわりといった人権意識の希薄さがあります。相手が受ける痛みを考慮することなく、徹底的に痛めつける場合さえあります。また、「いじめ」を行う子どもは、「のろいから」「のろま」と言っただけなどと言いつつ逃げることがありますが、そういった他人の弱い点を、思いやるのではなく逆に「いじめ」の口実にしてしまふ点も、人権意識の希薄さによるものといえます。人権意識とは、他人の心の痛みを分かるということにほかなりません。

**「いじめ」は差別の芽**

「いじめ」は、動きが鈍いとか水泳が下手だといった集団の中の異質なものを標的に、ただ異質であるというそれだけの理由で行われることが多いものです。

このような構造は、不合理な差別と軌を一にするもので、そのまま放置すれば差別の芽となる危険をはらんでいます。差別をなくすためにも、「いじめ」をなくすためにも、お互いの異なる点を個性として尊重する人権意識を養っていくことが重要です。

心の痛みと責任を自覚させることが大切

「いじめ」をする子どもは、「いじめ」を受ける子どもが、相談相手もないまま、来る日も来る日も一人で深刻に悩み続け、学校へ登校して皆と顔を合わせることにさえ恐ろしくなり、孤独感を感じて行き場を失い、将来にわたる深刻な被害をもたらすことについて、考えが及ばないようです。相手の立場になって考えさせ、「いじめ」が、大変に残酷で、取返しがつかない重大な人権侵害であることを十分に理解させることが最も大切です。

**・人権意識を育てることが大切**

結局、「いじめ」は、「いじめ」を行う子どもの存在感や自尊心の欲求不満の代償行動としてなされることが多いのですから、「いじめ」をなくすためには、根本的には「いじめ」を行う子どもの存在感や自尊心を満足させるように、彼らとのコミュニケーションを深め、彼らの悩みを解消していく指導が必要となります。

さらに、「いじめ」は他人に対する思いやり、人権意識の希薄さによる行為ですから、子どもたちの中に互いの人権を尊重し合う豊かな心を育てることが大切です。

(総務課人権推進室)